

医学・医療の世界は今、急速な変貌を遂げています。IoT、ビッグデータ、AI、ロボティクスの進歩は医学教育や研究、現場の医療の在り方を根本的に変えようとしており、それは「革命」と言っても過言ではないほどです。また、温暖化や異常気象など地球規模の自然環境の変化や、政治・経済の動向が、医学・医療の世界にダイレクトに反映する時代となっています。「人生100年時代」と言われるように、先制医療や認知症を含めた脳科学や健康長寿のための施策も重要になってきます。こうした中で、医療人に求められるものは何か。医療を目指す若者はどんな学びをすればいいか。「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」ことを掲げる東京医科歯科大学の吉澤靖之学長にお伺いしました。

コミュニケーション力と教養、感性を持つ医療人たれ

今、人類を取り巻く環境は大きく変動しています。自然環境のみならず、社会・経済・政治の分野でさまざまな困難な現象が生じています。これに伴い、医学・医療の世界も大きく変わりつつあります。

例えば、ゲリラ豪雨によってもたらされた災害や、難民・貧困を原因とした生活環境の劣悪化は感染症を発生させ、多くの被害者も出しています。また、急速な少子高齢化が進み、高齢に伴う疾患に対応した新しい医療が必要になっています。個人レベルで病気の発症前にそれを予測し、予防することで病気の発症を食い止める先制医療も重要度を増しています。東京医科歯科大学は、新たな先制医療の概念である統合先制医療保健学の世界的な研究教育拠点を目指していますが、この先制医療にもビッグデータ

例えば、ゲリラ豪雨によってもたらされた災害や、難民・貧困を原因とした生活環境の劣悪化は感染症を発生させ、多くの被害者も出しています。また、急速な少子高齢化が進み、高齢に伴う疾患に対応した新しい医療が必要になっています。個人レベルで病気の発症前にそれを予測し、予防することで病気の発症を食い止める先制医療も重要度を増しています。東京医科歯科大学は、新たな先制医療の概念である統合先制医療保健学の世界的な研究教育拠点を目指していますが、この先制医療にもビッグデータ

タ、AIを活用することが不可欠になっています。

こうした中で、我々はどんな医療人を目指すべきなのか。それが、東京医科歯科大学の基本理念である「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」の中に凝縮されています。ここでいう「知」には、まず、知識と技術があります。医学的知識は医療人にとって必須です。技術も医療人にとって必須です。もう一つ「知」で大切なのが、自己アイデンティティです。つまり、自分自身をよく知ることが大切です。患者さんと話している時、自分自身を知らないとした単に同情するだけで、専門知識を有効に活用できなくなってしまう。

次に、「癒し」とは感性と教養、多様性を受け入れるコミュニケーション能力のことです。物事に敏感に対応する感性をもつことで、問題点を見つけ出すことができます。教養は、知識を精神活動も含め自分の中で高めていくことです。コミュニケーション

目指すは「文理融合」を身につけた「知と癒しの匠」

今、医療の分野は目覚ましいスピードで変化を遂げています。ビッグデータを利用した、未来医療、も現実のものとなってきました。東京医科歯科大学ではAIを活用したゲーム医療の開発を目的とした未来医療開発コンソーシアムを設置しました。このようにビッグデータやIoT、AI、ロボティクスは今や医療にとって必須なものとなっています。

病院のインテリジェント化も進みます。将来は、患者さんは顔認証システム

能力は単に英語ができただけではだめです。相手の立場を理解すること、すなわち患者さんの言うことを否定せずに受け入れることができる能力です。相手の心を理解した上で、専門家としての助言ができること、なおかつ一緒に悩む、苦しむのが医療人なのです。

今、医療の分野は目覚ましいスピードで変化を遂げています。ビッグデータを利用した、未来医療、も現実のものとなってきました。東京医科歯科大学ではAIを活用したゲーム医療の開発を目的とした未来医療開発コン

ソシアムを設置しました。このようにビッグデータやIoT、AI、ロボティクスは今や医療にとって必須なものとなっています。

病院のインテリジェント化も進みます。将来は、患者さんは顔認証システム

が国の経験と実績を踏まえて、世界の健康レベルの向上に貢献しようというものです。

このため、学部生レベルから国際交流を活発に進めており、チリ大学及びタイのチュラロンコン大学に続き、2019年6月にはタイのマヒドン大学との間でジョイント・プログラマー（共同学位）プログラムが認められ、2020年4月に開設します。

さらに、カリフォルニア大学サンディエゴ校や南カリフォルニア大学などアメリカの大学との協定を結ぶことで、アメリカに拠点を置くことを目指しています。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに関連して、2018年5月には附属病院に国際医療部を新設し、外国人患者の受け入れ体制を整備しました。

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA（トップ型）に採択された東京医科歯科大学の「TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想・地球規模での健康レベル向上への挑戦」は、世界トップクラスの長寿国であり、国民皆保険をはじめ保険医療分野の制度が充実しているわ

世界最先端の研究実現へ
若手人材の育成に尽力

これからの医療では、先制医療が大きな要素となってきます。また、脳の科学がますます重要視されるようになるでしょう。そして、ビッグデータやIoT、AIが必要な技術として組み込まれ、こうした知見を生かして研究、教育、現実の医療に活用する時代が来ます。これらの知識や技術を磨き、なおかつ基礎的な研究も堅実に行うことが肝心です。東京医科歯科大学では、そのような観点から若手の研究者の育成に力を注いでいます。また、第1線で活躍しているシニアにも高等研究院という活躍の場を提供しており、リサーチユニバーシティ

としまして数多くの最先端の研究を実施しています。2020年度には「MDデータ科学センター」（仮称）を開設する予定です。また、「創生医学コンソーシアム」では、「再生医学」という段階から、さらに歩を進めた「創生医学」を追求しています。

東京医科歯科大学では、「教職員と学生は誇りと気品に満ち、生き生きしている」「患者さんは本学病院を信頼し、受診していることを誇りに思っている」「同窓生（他大学卒業生も含む）が胸に東京医科歯科大学のバッジを付け、それぞれの社会で活躍している」という大学の将来像実現に向け、「積極思考で全力を尽くす」「己を知れば邪心なし」の精神をモットーに、「世界に飛翔する知と癒しの匠」の育成に全力を注いでいます。



東京医科歯科大学 学長
吉澤 靖之先生

1972(昭和47)年、東京通信病院医師。1979年、米国ウイスコンシン医科大学客員教授。その後、筑波大学臨床医学系講師、東京医科歯科大学医学部助教授、同大大学院歯学部総合研究科教授、同大保健管理センター長、同大医学部附属病院副院長などを歴任。2008(平成20)年、同大理事、副学長。2014年4月から同大学長。

世界の健康レベル向上へ活発な国際交流を推進

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA（トップ型）に採択された東京医科歯科大学の「TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想・地球規模での健康レベル向上への挑戦」は、世界トップクラスの長寿国であり、国民皆保険をはじめ保険医療分野の制度が充実しているわ

「己を知れば邪心なし」
データサイエンスやAIが
医学・医療の世界を変える今、
世界に飛翔する
知と癒しの匠を育てる



解決することはできません。また、AIが進歩して患者さんと簡単な会話くらいはできるようになっても、最終的にその病気のバックグラウンドを考察して正しい診断を下せるのは「知と癒しの能力」をもった医師なのです。そして、超長寿社会になればなるほど、尊厳を持って死を迎えるにはどうすればよいかという死生観も重要になってきます。死生観についての教育を充実させるとともに、それを社会に啓発していくことも私たちの大切な役目です。

こうした時代に、医療人は文理融合の知識と考え方が要求されます。IT化が進めば進むほど倫理・法律などのEthical, Legal and Social Issues（倫理的・法的・社会的問題）が不可欠なものになってくるのです。ここで大切になってくるのが「知と癒しの能力」です。AIのデータ処理能力は人間の比ではありませんが、現在のAIは自ら課題を見つけ自ら